

**90** 心筋梗塞症の心ポンプ機能の経時的観察  
中村誠志, 木村 穰, 岩坂壽二, 斧山英毅, 杉浦哲朗,  
下條途夫, 大久保直彦, 稲田満夫 (関西医大2内科)  
夏住茂夫, 松本掲典, 白石友邦 (同, 香里放射線科)  
(目的, 方法) 初回心筋梗塞(MI)18例において発症1  
ヶ月, 1年, 2年後に自転車エルゴによる75W運動負荷を  
施行しRI angioを用い心ポンプ機能を経時的に観察した。  
(結果) 全例において経過中, 運動負荷時に胸痛等の自  
覚症状, 心電図変化は認めなかった。左室駆出分画(LVE  
F)の経年的変化はMI発症1ヶ月後より1年後で有意に増  
加(39±18%→44±18%, P<0.05)した。しかし, 2年後の  
観察では不変であった。一方, 運動負荷時のLVEFの変化  
を経時的にみると1ヶ月後と2年後では有意に増加したが  
1年後では有意な変化を認めなかった。(考察) 運動療法  
を含む適切な治療は心ポンプ機能の面からも, MI発症早期  
より, かつ長期にわたり行なう必要があると考えた。

**91** 圧・容積曲線(PVループ)からみた各種ペー  
シング・モードにおける心機能の差違  
杉本圭市, 前嶋満弘, 辻野元祥, 宮原康弘 (北信総合病  
院内科), 広江道昭 (東京女子医科大学放射線科), 谷口興  
一, 丸茂文昭 (東京医科歯科大学第二内科)

心プールのシンチおよびカテ先マノメーターを用いて,  
容積と圧を同時に測定してPVループを作成し, 心房ペー  
シング(AP), 心室ペーシング(VP), 心房心室順次ペー  
シング(AVSP)および心室心房順次ペーシング(VASP)に  
おける心機能を比較した。APとAVSPとの間には各指標  
に有意差はなく, VPでは拡張末期容積, 一回拍出係数, 心  
係数, 左室仕事量が減少し, VASPではさらにそれらの指  
標が減少した。PVループ自体はAPとAVSPではほぼ一致し  
VPさらにVASPと左下方へ移動した。生理的ペーシングの  
有用性が論じられているが, 心機能を保持する上でAP,  
AVSPがより有効と考えられる。

**92** ペースメーカー植え込み患者の左室機能  
久保田幸夫<sup>1</sup>, 久保田修平<sup>2</sup>, 飯塚利夫<sup>1</sup>, 今井 達<sup>1</sup>,  
鈴木 忠<sup>1</sup>, 村田和彦<sup>1</sup>, 井上登美夫<sup>2</sup>, 佐々木康人<sup>2</sup>  
(群馬大学第二内科<sup>1</sup>, 同核医学<sup>2</sup>)

永久的ペースメーカー(VVI)植え込み患者における心  
拍数の影響をみるために, 心機能正常(N)群10例と, 拡張  
型心筋症(DCM)群7例を対象に, <sup>99m</sup>Tc-心プールのシンチ  
グラフィを施行。70/分~110/分のペーシングレート  
における左室機能の変化を検討した。両群とも左室駆  
出率, 心拍量は, ペーシングレートにより有意な変化  
は示さなかった。拡張末期容積は, 両群ともペーシング  
レートの増加により, 有意に減少した。左室充満速度は  
, N群ではペーシングレートの増加に伴い有意に増加し  
たが, DCM群では不変かつ, N群に比し低値であった。以  
上, DCM群では, ペーシングレートの増加時に, 左室拡張  
機能の障害がより顕著となった。

**93** 人工ペースメーカー患者における, AV 時間  
変更が心機能におよぼす影響 心プール法による検討  
近藤一正, 加納浩一, 鈴木晃夫, 横田充弘, 山内一信,  
林 博史 (名古屋大学第一内科) 岡田充弘, 棚橋淑文  
(名古屋掖済会病院内科) 外畑 巖 (藤田学園保健衛生  
大学内科)

DDD ペースメーカー患者15名を対象としてA-V時  
間変更が左室機能におよぼす影響について, 心プール法  
を用いて検討した。A-V時間変更により左室駆出分画  
は有意な変化を示さなかった。左室拡張末期容積はA-  
V時間200msecにおいて最も大であった。

Systolicおよびdiastolic dv/dtはA-V時間150msec  
では50, 250msecに比し有意に大であった(p<0.05)。  
DDD ペーシングにおいて良好な左室収縮動態を示すA-  
V時間は150msecあるいは200msecであると考えら  
れた。

**94** 本態性高血圧症における拡張早期充満の加齢  
による変化  
大久保直彦, 津田信幸, 下條途夫, 木村 穰, 岩坂壽二,  
稲田満夫 (関西医科大学 第二内科)  
夏住茂夫, 松本掲典, 白石友邦 (同 香里病院)

本態性高血圧症(HT)における拡張早期充満の加齢に  
よる変化を明らかにする目的で, First pass法および平  
衡時法心プールのシンチより求めた各種心行動態指標と  
年齢との関連について検討した。対象は19才から78才の  
コントロール群(C群)22名, 49才から79才のWHO分類  
I, II期のHT群28名である。年齢と左室容積, 拍出量,  
収縮期指標との間にはC群, HT群ともに有意の関連を  
認めなかった。年齢と最大充満速度との間にはC群 $r =$   
 $-0.69$ , HT群 $r = -0.49$  といずれも有意の負相関が認  
められた。HT群では加齢に伴う拡張早期充満の低下が  
著しいと考えられた。

**95** 高血圧性肥大型心筋症・特発性肥大型心筋症における  
両心室の拡張動態の解析-加齢・収縮能の影響について  
鶴野起久也, 能戸徹哉, 中田智明, 田中繁道, 飯村 攻  
久保田昌宏\*, 津田隆俊\* (札幌医大第2内科, 同放射線  
科\*)

高血圧症(HT)及び特発性肥大型心筋症(HCM)における  
左右心室の拡張動態を年齢, 収縮能を考慮し検討した。  
健康者28例(NS), HT30例, HCM 25例を対象に心拍同期心  
プール法に高次位相解析法を施行。両心室とも最大拡張  
速度(PFR)は年齢とNS, HT両群で負の関係をみるが HCM  
群では認めず。左室PFRは3群で, 右室PFRはHT, HCM群  
で最大収縮速度(PER)と正の相関を示した。Age-match  
後の左右心室のPFR/PERはNS群に比し, HT, HCM群で有意  
な低値となり, また左右心室間のPFRはHCM群で有意な  
正相関を示した。HT, HCM両群とも左右心室の拡張動態に  
障害をうけ, HCM群は左右心室の異常が連動している。